

【いなぐま通信】

**ド・ケルバン病(狭窄性腱鞘炎)**

バックナンバー

今回はド・ケルバン病についてご紹介します。

まず、ド・ケルバン病とは狭窄性腱鞘炎の1つで手首や親指の付根の辺りが炎症を起こし、指を広げたり、つまむなど、動かす際に強い痛みが走るものです。主な原因の1つとして、手の使い過ぎが挙げられ、昔では職業病とも言われていましたが、近年では携帯電話の普及と共に増加傾向にあるため、年齢、性別、職業に関係なく起こる可能性があり、現代病の1つとも言われています。

**症状**

指を動かした際の痛みと腫れがあり、炎症症状による熱感を生じることがあります。悪化をすると、箸を持てない、字が書けないほど痛みが強くなり、手首や指を動かすことが困難になる場合があります。

**予防、改善、治療方法**

- ①なるべく患部を安静と、休養に努める。
- ②湿布等の消炎鎮痛剤で患部の炎症を抑える。
- ③サポーターやテーピング等で手首の運動を制限する。
- ④医療機関にて温熱療法や電気治療を用いた治療を行う。
- ⑤医師と相談をして炎症を抑える効果のある注射や手術を行う。

ド・ケルバン病になってしまったらなるべく安静を心掛け、重症化しないよう治療することが大切かと思えます。痛みが引かない場合や再発してしまいお悩みの方は一度、整形外科へ受診して頂くことをお勧めいたします。

- [2017/12号 肺炎球菌感染症](#)
  - [2017/11号 鷺足炎](#)
  - [2017/10号 線維筋痛症](#)
  - [2017/9号 鳩胸](#)
  - [2017/8号 オーバーユース症候群](#)
  - [2017/7号 手足口病](#)
  - [2017/6号 アニサキス](#)
  - [2017/5号 膝蓋骨骨折](#)
  - [2017/4号 膀胱炎](#)
  - [2017/3号 中高年の運動](#)
  - [2017/2号 ジャンパー膝](#)
  - [2018/1号 ド・ケルバン病](#)
- [過去のものはこちらから](#)

